

JAPIC NEWS

8

2011 | No.328

財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC**
Japan Pharmaceutical Information Center



【ウミネコ】
Black-tailed Gull

全長44～47cm。オホーツク海や日本列島の沿岸に分布し、冬季は中国南部の海域まで南下する。1年を通して、日本各地の沿岸や市街地の川で見ることができる。直径1mくらいを縄張りとして常に群れで生活し、魚や甲殻類、動物の死体など何でも食べる。オス・メスとも目つきはすどく、白色と濃青灰色の羽色をしている。その名の通り、ネコに似た声で「ミャオー」と鳴く。

Contents

■巻頭言

「カワセミを考える」

日本製薬工業協会 技術部長 川名 敏夫 …… 2

■インフォメーション

9月1日に医薬品集2種同時発刊致します !!

「JAPIC医療用医薬品集2012」検作用CD-ROM付 …… 4

「JAPIC一般用医薬品集2012」 …… 4

「日経テレコン21」からJAPIC医薬品情報データベースの提供開始しました …… 5

■トピックス

「第136回薬事研究会」を開催しました …… 5

「平成23年度JAPICユーザ会」を開催しました …… 6

JAPICユーザ会に参加して 株式会社日本アルトマーク MDB事業部 吉田 美佳 …… 7

株式会社日本アルトマーク MDB事業部 横塚 真弓 …… 7

JAPICユーザ会 アンケート結果より …… 7

JAPICユーザ会 事例報告より「JAPICサービス活用事例」

共和薬品工業株式会社 信頼性保証室 安全管理部 中井 美那子 …… 8

JAPICユーザ会 特別講演より「平均寿命と健康寿命 —ホームドクターの役割」

医療法人社団 五十嵐クリニック院長 五十嵐 正男 …… 10

■コラム

会員の声「今できることの一着を着実に」

イーエヌ大塚製薬株式会社 信頼性保証本部 安全管理室 星 雅樹 …… 12

くすりの散歩道 No.48「省エネはザゼンソウから」 (財)日本医薬情報センター 太田 福子 …… 13

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より-(抜粋) …… 14

■図書館だよりNo.254 ■情報提供一覧 …… 15

カワセミを考える

日本製薬工業協会 技術部長
川名 敏夫 (Kawana Toshio)



1. 美しい飛行物体との出会い

「川面すれすれに美しく輝く物体が飛んでいる！まるで翡翠色の小型ジェットのようなだ」これがカワセミと出会った最初の印象である。

十数年ほど前に、大阪の郊外（和泉市）に引っ越しをした。我が家の裏には、霊峰槇尾山を源流とする槇尾川が流れ、格好の散歩道となった。月に一度程度の散歩ではあるが、美しいカワセミと出会う機会に恵まれ、カワセミと縁があるのかもしれないと密かに思い始めた。そのうちに、カワセミが小枝から魚をとるために川面に水しぶきも上げずにダイビングし、あっという間に水中から飛び出す姿を数回見るようになった。その美しい姿だけでなく、スーッと飛ぶ行動とは全く逆の一定場所に留まるホバリングを難なくやっけるカワセミ（自然）の行動原理に感動した。

2. カワセミを考える—科学技術？

カワセミに興味を持った理由は、その美しい姿・色だけでない。ホバリングは、ヘリコプターの空中停止を想定させるが、カワセミは種々の技術革新に役立っているようだ。その一つは、新幹線との関係だ。

先頭車両のノーズをグリーンと伸ばしたJR西日本500系新幹線車両の開発には、カワセミが水に飛び込むシーンをヒントにしたとされている。山陽新幹線は全線の50%近くがトンネルであり、新型車両での高速化には、トンネルに入る際のドーンという衝撃音の発生（トンネル微気圧波）が最大の壁になったとされる。これを解決するた

めに開発技術者の中で、自然界に抵抗の大きな変化を日常的に体験している生き物がいないかの議論となった。浮上したのがカワセミである。魚をとるために抵抗の少ない空気中から、大きな抵抗を有する水中に水しぶきも上げずダイブするカワセミ、そのくちばしから頭部にかけての形状が研究され、放物線型のカワセミに類似した車体が開発され、トンネル衝撃音は解決された。

もうひとつの事例が、ハイテク水着との関係である。オリンピックのたびに競泳水着の開発が話題となる。スポーツメーカーの水着開発者は、ダイブしたカワセミが素早く水中から飛び出してくる現象を観察し、カワセミの羽の強力な撥水性能の研究を開始した。この成果として、ミクロの突起で水の抵抗を5%近く低減させることに成功し、2004年のアテネオリンピックでの柴田選手の金メダル獲得の一つの要因になったと話題となった。

これらの研究は、いずれもカワセミ（自然界の生き物）を種々の角度から鋭く観察、分析研究、発想し、一定の原理を見出し、ヒトに役立つものに応用した技術であり、いわば「自然から学んだ科学技術」の事例ともいえる。科学技術という言葉には様々な定義があるようだが、科学という客観的なきまりや原理を見出し、ヒトに役立つものに変えていくことが技術だという理解があり、私にはわかりやすい。

3. 医薬品開発を考える

カワセミの観察、調査研究が新幹線車両やハイテク水着の開発のきっかけになったエピソードは、抗生物質を

はじめとする天然物由来の医薬品の発見・開発プロセスを思い起こさせる。1990年代前半までの世界で承認された新薬の中心は、天然物や低分子化合物であった。90年代後半からバイオ医薬品の割合が高まり、さらに抗体医薬、核酸医薬さらに分子標的薬へ進化した。医薬品のタイプは大きく変化しているが、基礎から臨床に至る研究プロセスを通し、ヒトに役立つもの(医薬品)かどうかの視点での、観察・調査分析、発想力や評価・見極め力が極めて重要であることは共通の要素であろう。

今、わが国では医薬品開発力の減速化・空洞化の危機に直面している。日本発・初の新薬創出力を維持させることは、国の国際競争力や成長戦略上重要だけでなく、東日本大震災を契機として、自国で医薬品を開発し、供給できる体制を整備しておくことは、国民の安全を確保する上でも極めて重大であることを改めて痛感した。

わが国が世界の主要創薬国の地位を維持していくにあたっての課題は、創薬の仮説をヒトで検証する早期・探索的臨床試験(Proof of Concept:POC)実施体制の整備である。新薬開発の見極めに重要であり、国際共同治験の計画にも直結する、この段階の試験はほとんど欧米に依存しているのが現状である。一方、韓国、台湾、シンガポール等のアジア諸国では、すでに早期臨床試験の実施が可能になり、年々規模は拡大している。今後、わが国の医薬品開発力を維持発展させるためには、最新のテクノロジーと評価指標を用いた早期・探索的臨床試験ができるように、医療機関等の実施体制の強化・整備を急ぐべきである。

また、医薬品開発の効率化と成功確率を高めるためには、電子カルテを中心とした医療情報データベースの構築が必須のインフラ整備となる。平成23年度から安全性評価のための1,000万人規模を目指した医療情報データベース構築事業がスタートした。業界としても長年提言した課題であり、わが国でも具体化したことは画期的なことと考えられる。今後、治験、臨床研究の計画・登録やモデルに基づいた医薬品開発(Model-Based Drug Development:MBDD)等の臨床開発の成功確率向上に役立つ新しい手法に活用できる医療情報データベースへの進化が緊急の課題である。

医薬品開発・適正使用のプロセス、すなわち創薬標的

探索からシーズ発見、最適化研究、非臨床、臨床試験を経て審査・承認され、患者さんに適正使用されるまでのプロセスの各々の段階で評価・意思決定が行われる。その評価・意思決定を促進・支援させる新しいツール、基準、手法、アプローチ法等を開発する科学いわゆるレギュラトリーサイエンスの推進が極めて重要となる。

今後、開発期間短縮化・成功確率向上を目指したレギュラトリーサイエンス的アプローチによる総合的な新薬開発戦略のもとに、キラリ輝く日本発のカワセミ型新薬が創出される可能性を秘めている。

4. 二度とない人生だから

東京で生まれ育ち、自然との接触の少ない私にとって、カワセミとの出会いは、自然の素晴らしさや想像を超える展開や出会いを与えてくれ、カワセミ以外の自然や自然科学への案内をしてもらい、心豊かにしてくれた。

九州の黒川温泉に泊まった際に、坂村真民氏の「書は心」の一節に触れた。

「二度とない人生だから 一輪の花にも無限の愛をそそいでゆこう 一羽の鳥の声にも無心の耳をかたむけてゆこう」

「二度とない人生だからまず いちばん身近な者たちにできるだけのことをしよう 貧しいけれどどこも豊かに接してゆこう」

「二度とない人生だから つゆくさのつゆにもめぐりあいのふしぎを思い 足をとどめてみつめてゆこう」

「二度とない人生だから のぼる日 しずむ日 まるい月 かけてゆく月 四季それぞれの星のひかりにふれて わがところをあらいきよめてゆこう」

「二度とない人生だから」のとらえ方は個々人で異なるであろう。でも二度とない人生だから、第2、第3のカワセミと出会えるように自然を見つめ、ヒトとの出会いを大切に、心豊かに、心を生かした人生を過ごしたいものである。カワセミは、すぐ“そば”にいるのかもしれない。

9月1日に医薬品集2種同時発刊致します!!

「JAPIC医療用医薬品集2012」検索用CD-ROM付

◆6月の後発品収載、7月の新薬収載に対応◆

《特長》

- ◇2011年7月の新薬収載分までの医療用医薬品を網羅
(約18,000製品)
- ◇医療用医薬品添付文書情報を有効成分(約2,100成分)ごとにまとめて掲載。
1,300成分については「構造式」も掲載
- ◇先発品(またはそれに準じると思われる医薬品)と後発品及び局方品が明確に
区別できるように記載
- ◇同一成分内での剤形の違い・製品の違いにより効能・効果、異なる場合はその
違いを明記
- ◇医療用医薬品添付文書情報・一般用医薬品添付文書情報・医療用医薬品識
別コード情報を収録し、最新医療用医薬品添付文書へのリンク機能*を搭載し
た検索用CD-ROM(非インストール版)を添付
*インターネットを経由してJAPICが運営するiyakuSearch掲載の添付文書PDF
を表示



《価格》 ¥13,650(税込)(検索用CD-ROM付)

〈☆検索用CD-ROM(非インストール版)は単品でもご購入いただけます。 ¥8,000(税込)〉

「JAPIC一般用医薬品集2012」

情報提供に重点が置かれた一般用医薬品の販売制度改正への対応に、本書をご活用ください。

《特長》

- ◇国内流通の一般用医薬品、約12,000製品を収録
(2011年7月までの一般用医薬品情報を収録)
- ◇最新の添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集
国内流通の一般用医薬品をほぼ全て網羅
- ◇各製品の組成・効能効果・用法用量を掲載すると共に、薬効ごとの「使用上の注
意記載要領」を記載し、更に新一般用医薬品などの「使用上の注意」を収録して
添付文書記載内容を網羅するよう編集
- ◇一般用医薬品販売に必須情報である、医薬品製品ごとのリスク区分を本文(製品
説明部分)及び50音索引に掲載。探している医薬品のリスク区分がすぐ判る第一
類医薬品のみを集めた索引に製造販売会社などの情報を付加した第一類医薬品
索引を収録
- ◇付録:一般用医薬品のリスク区分一覧(成分)・ブランド名別成分比較表・国内副
作用報告の状況・重篤副作用疾患別対応マニュアル(一部)を収録



《価格》 ¥9,450(税込)

■お問い合わせ先:事務局 業務・渉外担当(TEL:0120-181-276)

「日経テレコン21」から JAPIC医薬品情報データベースの提供開始しました

JAPICが提供する7つの医薬品情報データベースが「日経テレコン21」及び「日経テレコン21医療版」から6月28日付でリリース致しました。

「日経テレコン21」は、日本経済新聞デジタルメディアが提供する日本最大級の会員制ビジネスデータベースサービスです。新聞・雑誌記事から、国内120万社・海外5,000万事業所の企業情報、ビジネスに欠かせない人事情報にいたるまで、幅広いビジネス情報を多数収録しています。更に、「日経テレコン21医療版」は、「日経テレコン21」が提供する膨大な情報の中から、医療・製薬業界に関するものだけを抽出し、使いやすいインターフェースでお届けする情報サービスです。情報の信頼性や、網羅性といった特長はそのままに、製薬会社のMR、製薬卸のMSなどの営業活動を強力にサポートします。

JAPICからは以下の7つのデータベースを提供しております。

- ①医薬文献情報 ②学会演題情報 ③医療用添付文書 ④一般用添付文書 ⑤日本の新薬
⑥学会開催情報* ⑦承認品目情報* *⑥⑦は「日経テレコン21医療版」のみで提供

「日経テレコン21」 <http://t21.nikkei.co.jp/>

「日経テレコン21医療版」 <http://t21c.nikkei.co.jp/med/>

■お問い合わせ先：株式会社日本経済新聞デジタルメディア (TEL：0120-216-216)

トピックス TOPICS

「第136回薬事研究会」を開催しました

平成23年6月21日(火)に、科学技術館サイエンスホールにて第136回薬事研究会を開催しました。

はじめに、(独)医薬品医療機器総合機構品質管理部部長 櫻井信豪先生から、「GMPの現状・方向性・将来展望について」というテーマで、PMDAのGMP体制・調査方針、調査実施状況と留意点、GMPの今後の方向性・将来展望としてPIC/S、MRA等国际協調について、国際的整合に向けての日本の課題、課題解決についてお話いただきました。PIC/S(世界各国の薬事行政当局で構成する、GMPの相互査察や医薬品の製造品質確保を目的に連携を図っている団体)については、現在37カ国(39規制当局)が加盟しており、日本も加盟に向けて作業を進めていること、PIC/S加盟にあたっての課題として国内GMPガイドラインとPIC/S GMPの整合性の確保があり、両ガイドラインのGAP分析を実施中であること、PIC/Sガイドを国内GMPガイドに取り込む際の基本的な対応方針について10月にパブリックコメントを募集する予定であることを明らかにしました。将来、PIC/S GMPが世界標準になるだろうといわれています。

次に、日本製薬工業協会品質委員会ICH Q-IWG JPMA Expertの寶田哲仁先生(持田製薬)から、



サイエンスホール会場

「ICH-Qトリオ(Q8、Q9、Q10)について-GMPとの関連性」というテーマでお話いただきました。

ICH-QトリオのQ8(製剤開発)、Q9(品質リスクマネジメント)、Q10(医薬品品質システム)は、「科学とリスクマネジメントに基づいた医薬品のライフサイクル全般に適用可能な品質保証体制」を目指して作成されました。企業のリスクおよび製品リスクとICH-Q8、Q9、Q10の関係、製品ライフサイクル(製剤開発、技術移転、商業生産、製品の終結)との関係、ICH-Q10 PQSの目的(医薬品ライフサイクル全期間での継続的改善を促進すること、医薬品製造のための近代的な品質システムを作成し、既存のGMPを増強すること)、PQS体制の事例、マネジメントレビュー文書例、Q10導入のアプローチ例、既存の体制からの改善アプローチ例など、詳細に説明していただきました。

平成17年の改正薬事法施行から5年が経過しました。GMPの国際整合化とGMPのあり方など、興味深い内容で、参加者も約260名と盛況でした。(KA)

「平成23年度JAPICユーザ会」を開催しました

平成23年度JAPICユーザ会を6月27日(月)長井記念館ホール(東京)、6月30日(木)大阪ブリーゼプラザ(大阪)で開催しました。当日の参加者は東京45名、大阪27名でした。

前半はJAPICから概況・平成23年度事業計画及び各事業の現況と今年度からの新しい事業について各担当から説明いたしました。

医薬文献情報(国内)担当はJAPIC-Qサービス(概要と提供実績など)とJAPIC-QXサービス、海外情報の提供及び今年度からの新規サービス(安全確保業務の受託、代行検索サービス)について、医薬文献情報(海外)担当はJDMとJDMエクストラサービスについて、添付文書情報担当からは医療用医薬品集更新情報Web、医療用・一般用医薬品集CD-ROMインストール版の利用方法、類似名称検索サービスなど、開発企画担当はJAPIC AERSサービスの概要と新規サービスであるJAPIC AERS Viewerについて説明をいたしました。

後半は事例報告と特別講演をお二人の方にお話いただきました。

事例報告として共和薬品工業株式会社 中井美那子氏から「JAPICサービス活用事例」と題して社内でJAPICのサービスをどの部門でどんなサービスを利用しているかの活用状況をお話いただき、JAPICのサービスに対する課題などもご提案いただきました。

特別講演は医療法人社団 五十嵐クリニック院長 五十嵐正男先生に「平均寿命と健康寿命ーホームドクターの役割」と題してご講演をいただきました。ホームドクターの役割は本来の病気を見つけ治癒させるだけではなく、健康寿命(人が介護を受けなくて自立した生活を送る事の出来る年数)を1日でも延ばしてあげることでは



ないかということで、健康寿命を低下させる4大因子〔各種器質的疾患(がん、虚血性疾患、高血圧、糖尿病など)、内臓脂肪症候群(メタボ)、運動器症候群(ロコモ)、認知症〕とその予防、開業医として他科の医師との連携などについてご講演いただきました。老化を遅らせるためには小食、ストレス解放そしてインターバル速歩(普通歩き3分と最大速度の70~80%の歩き3分を交互に4~5セット1週間に3~5回)など具体的に今日からでも実践できる事もあり、全員が必ずや迎える老化への対応としてとても参考になったのではないかと思います。五十嵐先生が聖路加国際病院のレジデントの時の先輩の日野原先生はその当時から小食でいらっしゃったとお話や、五十嵐先生もインターバル速歩を実践しているとお話など大変楽しくそして皆真剣に聴講されていたように思います。

情報過多の世の中でJAPICの情報を最初に選んでいただけるよう、より質の高いそして皆様のお役に立つサービスを提供していく所存でございますので、いつでも忌憚のないご意見をいただきましたら幸いです。

JAPICユーザ会に参加して

吉田 美佳 (Yoshida Mika)
株式会社日本アルトマーク MDB事業部

弊社の事業内容はメディカルデータベース事業、医薬事業（製造販売後調査・安全性業務受託）になります。その中で私はドクター業績ファイル（DAFI）と医薬関連学会演題情報の加工業務専属担当をしております。いずれもJAPICのデータに関連しております。さて平成23年6月27日に日本医薬情報センターで開催されたJAPICユーザ会に参加した感想ですが、特に印象に残りましたのは五十嵐正男先生の講演です。

寝たきりにならない為に老化を阻止することが医者の仕事だというお言葉がとくに耳に残っています。そして信頼のおける掛かりつけ医をもつことが大事ということもよくわかりました。風邪は症状の軽いうちに治療をする必要があるということは私もそれは身をもって痛感しています。たばこはやはり害があるだけでよいことは一つもないということもよくわかりました。最悪死に至ることもあるということでもとても恐ろしく感じました。

今回JAPICの皆様を始め、五十嵐先生の貴重な講演を拝聴できてとても有意義な時間を過ごすことができました。

横塚 真弓 (Yokotsuka Mayumi)
株式会社日本アルトマーク MDB事業部

今回ユーザ会に参加させて頂き、とても印象に残りましたのは五十嵐正男先生の「平均寿命と健康寿命」についての講演です。

寿命と健康寿命との差が7年近くもあり、誰かの介護を必要とする期間がこんなにもあるのだと驚きました。人が介護を受けずに、自立した生活を送れる健康寿命を延ばす為、どのようなことに気をつけて生活していけば良いのか、五十嵐先生のお話を聞いて気づかされることができました。また、治療や予防だけではなく、時間をロスすることなく、後遺症などが残らないように手筈を整えるなど、先生の取組みにも感銘を受けました。

そして、私が携わっている業務では、直接JAPICのサービスを利用しているものではないので、今回このユーザ会に参加させて頂いて、JAPICの様々なサービス・取組み、そのサービスを会員の皆様がどのように活用されているのか、このユーザ会に参加して知ることができました。ありがとうございました。

JAPICユーザ会 アンケート結果より

「平成23年度JAPICユーザ会アンケート」の結果について報告いたします。

ご協力に感謝申し上げます。いただいたご意見は今後の事業活動に活かしていく所存です。

参加者総数：72 回答総数：59

回収率：59/72=81.9%

1. ユーザ会の内容を評価するについては「良い」「普通」の合計が95%であった。
2. JAPIC担当者の説明について「よく分かった」「普通」とするものは、92%であった。
これに対し「よく分からなかった」とするものは、東京で8%あった。
3. JAPIC事業の中で「JAPIC AERS」について「興味がある」、「詳細説明を聞きたい」としたものは27%、「現在は利用しない」が63%「JDM EX」についても同様に聞いたが「興味がある」は27%「現在は利用しない」は56%であった。
4. 事例報告について「非常に参考になった、良かった」「他社の利用状況を知る良い機会だった」としたものが46%と高い評価であった。
5. 特別講演については「普段聞くことができない話で非常に面白い講演だった」「臨床医としての本音が聞け具体的な疾病ごとの

留意事項も分かりやすかった」「高齢者医療の説明がわかりやすかった」など多数の感想をいただき63%と高評価であった。

6. JAPICの活動、サービス内容については

「JAPIC-Qの採択雑誌数（海外誌含む）を少しづつでも良いので増やしていただきたい」「費用の面をもう少し考えてほしい」「電子化を今後より一層進めていただきたい」「まだ活用しきれていないデータが多くあることを知った」「いろいろ試してみたい」「医薬品集CD-ROMのインストール版の説明を聞き使ってみたいと思った」「AERSに興味を持った」「今後のより良いサービスに期待しています」「PMDAが進めている医薬品DB構築事業等とどのように棲みわけていくのか」

「一般名記載論文（学会発表）の製品名調査を各社が実施するのは医療機関にも負担がかかるのでJAPICで一本化できませんでしょうか」「薬剤師会としてJAPICの無料サービスの活用方法を薬局勤務薬剤師及び、開局薬剤師に伝えたい」など。

JAPICサービス活用事例

共和薬品工業株式会社 信頼性保証室 安全管理部
中井 美那子 (Nakai Minako)



共和薬品工業(株) 安全管理部に所属しています中井と申します。今回、ユーザ会で発表致しましたJAPICサービスの活用事例を、この紙面をお借りして紹介させて頂くことになりました。簡単ではございますが以下に説明致します。

弊社は後発医薬品の製造販売業者で、6月24日現在の製品数は、取扱品を除くと104成分227規格あります。

社内では安全管理部のほかに、営業推進部・学術情報課と営業企画部がJAPICサービスを利用しています。

利用しているサービスについて

弊社が利用しているサービスは、JAPIC-Qサービス、JAPIC Daliy Mail (JDM)、iyakuSearchです。また、出版物、医薬品・一般用医薬品集 (CD-ROM) も活用しています。GVPに関する業務は安全管理部が行っていますので、JAPIC-Qサービス、JDMについては当部で管理をしています。iyakuSearchについては、問い合わせを担当している当部と学術情報課が使用しています。出版物については必要時各部署が使用し、医薬品・一般用医薬品集 (CD-ROM) については学術情報課と営業企画部が利用しています。

それぞれの活用状況は次の通りです。

サービス	活用法	利用部署
JAPIC-Qサービス	文献・学会情報の収集	安全管理部
JAPIC Daliy Mail	海外の安全管理情報の収集	
iyakuSearch	問い合わせの際の文献検索	安全管理部 学術情報課
出版物	随時活用	安全管理部 学術情報課
医療用・一般用 医薬品集 (CD-ROM)	他製品との比較	営業企画部 学術情報課

JAPIC-Qサービス

JAPIC-Qサービスは、文献・学会情報を収集するために活用しています。弊社では新製品の発売時に新成分を追加登録します。また、検索キーワードは「副作用」、「感染症」、「安全性」の3つで、紙媒体で文献を頂いています。届いた文献・学会情報の内容は当部の2名で確認し、記録票にその内容を記入します。その際、自社品と判明した副作用症例の文献の場合はMRに調査依頼を行います。文献等の確認について、部内のルールでは2名のうち1人は新人が行うことになっています。これには2つの理由があり、1つは早く自社製品の名前を覚えるため、もう1つは副作用名に慣れるためです。これに加えて新人時代の私の場合、この作業により英語文献にも慣れることができました。

内容を確認した文献等は、製品名とMedDRA/JのSOCで分類します。SOCは26種類ありますが、SOCにあてはまらない内容のものは「安全性」、「その他」などに分類します。また、内容が副作用症例の場合はPTも確認することにしてしています。その後、製品名、タイトル、第一著者名などをつけて、全文を弊社のデータベースに登録します。登録することで当部と学術情報課が閲覧可能となり、医療機関などからの問い合わせの際に検索して活用しています。2010年度の文献収集数は1,707件、月平均142件でした。学会シーズンになると、週に70~80件ほどの文献を頂くこともあります。

JAPIC Daliy Mail

JDMは、海外の安全管理情報を収集するために活用しています。受信したメールに自社製品に関する内容があるか確認し、必要に応じ機構に措置報告・研究報告を行っ

ています。部内でFDAやEMAなどの海外当局ホームページを毎日確認することは時間的・経済的に大きな負担となるため、日本語の要約がついたJDMは大変助かっています。また、最近では海外での措置が日本での使用上の注意改訂などに関係することが多いため、その情報源としても利用しています。抗精神病薬、プロトンポンプ阻害薬（PPI）、ピオグリタゾン塩酸塩などが改訂となった際、情報源の1つとして活用させて頂きました。

具体的な事例として、2011年5月に使用上の注意を改訂したPPIをあげてみました。これに関する最初の情報は、2010年5月にFDAがPPIのクラスラベルを行ったというJDMでした。このため、日本での動向を注視していたところ、改訂の連絡を頂いたという次第です。JDMの内容と関連付けることができ、改訂内容の説明や連絡をスムーズに行うことができました。

活用状況 (2010年度)

JAPIC Daily Mail (JDM) (2)

最近の「使用上の注意改訂」事例
プロトンポンプ阻害薬 (2011年5月 自主改訂)
〔海外における骨折リスクの増加について〕
2010/5/26: JDMにてFDAクラスラベル改訂の情報入手
2011/4~: 自主改訂の情報入手
2011/5~: 情報伝達開始

iyakuSearch

iyakuSearchは、医療機関などからの問い合わせの際に活用しています。弊社データベースを検索しても該当文献が無い場合や、より内容の充実した文献が必要な場合はまずiyakuSearchを検索します。多くの文献には抄録が付いていますので、急ぎの問い合わせではそこを紹介できますし、英語文献を紹介する際にも活用しています。また、文献そのものが必要な場合は各自で複写申し込みをしています。しかしながら、海外の文献数についてはそれ程多くないと感じますので、他のツールで検索してカバーしています。

出版物

当部では、主に「重篤副作用疾患別対応マニュアル」をMRの研修や患者さんからの問い合わせで使用しています。特にMRの研修では2つの場で活用しています。1つは新人MRへの研修時です。新人MRは副作用名に慣れていないため、まず弊社製品に関して多いものや重要な副作用を中心に、本マニュアルを用いて説明しています。もう1つは、全MRを対象とした研修時です。使用上の注意改訂で追加となった副作用を説明する際には大いに役立っています。

一方、学術情報課では「添付文書記載病名集」と「病名適応医薬品集」を活用しています。学術情報課はレセプトに関する問い合わせにも対応しているので、その際はこれらがとても有用とのことでした。

最後に、弊社の実状に付随したJAPICへの要望について意見を述べさせて頂きます。JAPIC-Qサービスでは上記のとおり月平均140件ほど文献を頂いています。そのうち約半数は「安全性」のキーワードで検索されていますが、自社製品に関する内容がほとんどないものも含まれます。つきましては、「安全性」のキーワードの見直し、さらにはキーワード全体の見直しをお願いしたいと思います。

末筆ですが、この場をお借りしてJAPICの皆様へに発表の機会を設けていただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

平均寿命と健康寿命 —ホームドクターの役割

医療法人社団 五十嵐クリニック院長
五十嵐 正男 (Igarashi Masao)



我が国の平均寿命は過去100年の間、50年ごとに20才ずつ長くなってついに81.9才となり、世界一の座をこのところ維持している。

この平均寿命に対してWHOが2000年に健康寿命 (Healthy Life Expectancy) という概念を発表した。これは介護を受けなくて健康なまま自立して過ごす事の出来る年齢のことを意味している。これは日本では男女平均75才であり、やはり世界一である。これ自体は喜ばしいことである。

しかしよく考えたら平均寿命から健康寿命を差し引いた数字は、介護を受けながら人が生きて行く年数であり、本人も周囲の人も不本意な日々を送る不幸な年数を意味している。これは日本では6.9年で、決して少ない数字ではない。世界の趨勢を見ると表1で見られるように、先進国ではどの国も似たり寄ったりで、7年前後の数字を示している。

表1 世界の平均寿命と健康寿命の上位国

国名	平均寿命	健康寿命	その差
日本	81.9	75.0	6.9
スイス	80.6	73.2	7.4
オーストラリア	80.4	72.6	7.8
スウェーデン	80.4	72.3	7.1
カナダ	79.8	72.0	7.8
フランス	79.7	72.0	7.7
イタリア	79.7	72.7	7.0

ホームドクターはこれまで患者さんとその家族の健康を守ってきたが、その主な仕事は病気になったらそれを治療してあげる事であった。しかしこの様に平均寿命が延び、その上介護が必用な日々が長くそれに続いている現在では、ホームドクターの仕事は病気の治療だけに止まっては済まされなくなっている。

つまり現代では、病気の治療は勿論ではあるが、それ以前に、如何にして老化を遅らせ、健康寿命を延ばしてあげるかを何よりも優先して考えなければいけない時代になって来たのである。

健康寿命を短くする大きな因子は

- (1) ガン、虚血性脳疾患および虚血性心疾患、高血圧、

糖尿病などの器質的疾患

- (2) 動脈硬化を促進する内臓脂肪症候群 (いわゆるメタボ)
- (3) 寝たきり状態を生み易い運動器不安定症あるいはロコモティブ状態
- (4) 年齢不相応に進行する老化
- (5) 認知症

等であろう。ホームドクターの仕事はこれらの状態の発生を予防し、治療してあげる事を中心としなければいけないのである。

次に各々の状態にどのように対処していったらよいか簡単に述べる。

1 ガン等の器質的疾患対策

ガンは日本人の死因の第1位である。このガンの発生に関係するのは先天的な因子より、圧倒的に後天的因子、その中でも特に環境因子が強く影響している。これまで知られている環境因子の中では喫煙と、肥満を来すような食生活がガン発生に圧倒的に大きな影響を与えることが判っている。次いで飲酒、野菜や果物をとらないこと、塩や塩蔵食品の大量摂取、その他に紫外線、放射線、ウイルス感染、運動をしないことなども影響があることが知られているので、それらの点を具体的に患者さんに注意してあげている。これらの環境因子についてはWHOから2003年に発表されているtechnical repor*や、国立がんセンターから発表されている「ガンを防ぐ為の12条**」が判り易い解説なのでぜひ見て頂きたい。

虚血性脳疾患 (脳梗塞、脳出血、脳塞栓症など) や虚血性心疾患 (狭心症、心筋梗塞) などの予防や治療は、これまでの医師の仕事の最も大切な部分であり、これについては紙数の関係でここでは触れる事は出来ないが、その原因となる動脈硬化を特に促進する因子、つまり高血圧と糖尿病についてホームドクターとして特にやらなければいけない点に限って述べる。

高血圧に関して特に注意する点は、脳梗塞や心筋梗塞などの心血管イベントが起きやすいのは早朝から午前中の早い時間帯であるということである。この時が何故危

険なのかというと、モーニング・サージと言う現象があって、交感神経緊張が関係して血圧が高くなってしまいう時間帯であると同時に、血小板の凝集能が高まっている時間帯でもあるからである。そのため、患者さんに朝・夕2回の家庭血圧測定をして貰い、モーニング・サージの存在を確かめた上で、降圧剤をこの時間帯に特によく効くように投与時間の調節をする。

糖尿病についてはコントロールの目安としてHbA1C 6.5以下を目標として食事療法と運動を積極的に勧め、それでも十分なコントロールが得られない時には薬物療法を併用するが、最近はインクレチン関連薬が使われるようになり、薬剤によるコントロールが安全に、しかも非常にやりやすくなった。

2 動脈硬化を促進する内臓脂肪症候群

(いわゆるメタボ) 対策

内臓脂肪による肥満と同時に、高血圧、高血糖、高脂血症などの生活習慣病を併せ持った状態を言うが、1日の総カロリー摂取が大きいことと、それに見合う運動量が無いことが原因なので、会社を退職した途端に介護が必用な状態になる可能性が強いことを自覚させ、一つ一つリスクファクターを取り除いて行かなければいけない。大都会に住むサラリーマンは自分の自由になる時間があまりにも少なく、運動のために時間をとることなど非常に難しいが、朝食を抜かないできちんと食べる、間食を止める、カロリーの多い昼食を避ける、短距離の移動は歩く、休日は朝早く起きて運動をするなどの努力をやって貰う。自分の体重をグラフにして壁に貼り、頻繁に自分の状態を自覚するなどの努力が必要である。

3 要介護になり易い運動器不安定症

(あるいはロコモ状態) 対策

大腿骨頸部骨折、骨粗鬆症、変形性関節症、腰部脊柱管狭窄症、関節リウマチ等を始めとする多くの運動器の疾患のため、歩行時にふらついて転倒しやすい、関節に痛みがあってよろけやすい、などの病態があり、要介護になるリスクの高い状態を意味する。これらの病気がなくとも、運動を全くしないで日々を過ごした人は、下半身の筋力低下が著しく、この状態になり易い。平素から早足散歩を日課の一つに取り入れておけばこの様にはならなくて済む。

最近松本市を中心に盛んになっているインターバル速歩はこれを予防する大変良い方法である。これは普通の歩きを3分間、その後最大速度の70~80%の速度で3分

間歩く。この組み合わせを4~5回繰り返す。これを1週間に3~5回行うことで、心肺能力は上がり、下半身の筋力は増強され、メタボ状態から脱却でき、糖尿病は改善される。松本市では市を挙げてこの運動が熱心に行われた結果、健康保険の支出が見事に減ったという実績がある事からも、この運動が健康に大きく寄与し、さらには健康寿命を大きく延ばすことに寄与していることが判る。

4 年齢不相応に進む老化対策

人により実際の年齢と見た目の年齢が大きく違うことがある。この暦年齢と生理的年齢(見た目の年齢)との差は高齢になる程、人により大きく異なる。この違いは上に述べた様な病気が関係してくるが、そうでなくとも

- ① いつもストレスを感じながら生活を送っている。
- ② 歯周病のため歯を失ない、十分に噛まないで食事をしている、一口30回くらいは噛まないでのみ込んでいる。
- ③ 普段から腹8分目の食事をしておれば、いわゆる長寿遺伝子を活性化させられるのに、常に満腹するまで食べている。
- ④ 定期的な運動をしていない。
- ⑤ やるべき仕事、ないしは没頭出来る楽しみを持っていない、いつも退屈を感じたまま日々を過ごしている。
- ⑥ 質の良い睡眠をとっていない。等、で老化が暦年齢以上に急速に進んでしまうことを理解して貰う。

5 認知症対策

アルツハイマー型認知症などの変性認知症を防ぐ手段は今のところ発見されていないが、同じ認知症でも脳血管性認知症は動脈硬化を進行させない努力をする事で可成り防ぐことが出来る。

つまり高血圧のコントロールを充分にやり、糖尿病のコントロールを行い、4の項で述べたような老化対策を日常生活の中で行うことで認知症発症を防ぐ、あるいは遅らせることが充分に可能である。

以上述べてきたよう、ホームドクターの仕事は、単に病気を見つけて治療する事だけではなく、年齢が進んでも心身共に健康な状態を維持し、介護が必用になる状態を1日でも遅らせる事にもあることを自覚しなければいけない。

* WHO technical report series 916. Diet, nutrition and the prevention of chronic diseases. WHO, Geneva, (2003)

** <http://www.fpcr.or.jp/pdf/12kajou.pdf>

会員の声



今できることの一番を着実に

イーエヌ大塚製薬株式会社 信頼性保証本部
安全管理室 星 雅樹 (Hoshi Masaki)

どんな会社？

イーエヌ大塚製薬株式会社は、大塚製薬株式会社、雪印乳業株式会社（現：雪印メグミルク株式会社）及び株式会社大塚製薬工場の三社の合弁会社で、2002年に設立されました。本社は、岩手県花巻市にあります。

「イーエヌ」は、Enteral Nutrition（経腸栄養）の頭文字に由来しています。「栄養」を科学的に探求・検証し、それらを生かした製品開発を通じて、安心で優れた製品と情報を提供することを企業理念に、医薬品の経腸栄養剤を製造・販売しているほか、通常の食事を取ることが難しい方のために軟らかく加工した食品（摂食回復支援食）の販売も昨秋からはじめました。

業務内容は？

私の所属する安全管理室は東京の事務所に職場があり、安全性情報の収集、評価を主に行っています。こじんまりとした職場で、その分、副作用調査から文献・学会情報のチェック、教育訓練、行政対応等と、ひとりがカバーする業務範囲は広がっていますが、より充実した業務を目指し、日々努力しています。

JAPICとのかかわり

副作用情報等の収集活動において文献・学会情報は大切な情報源ですが、それにはJAPIC-Qサービスを活用させていただいております。毎週、膨大な国内外の文献から適切な情報を提供いただいております。また、国内外の規制情報等に関してJAPIC Daily Mail、文献の検索にiyakuSearchも利用しています。

iyakuSearchは過去のDaily Mail情報等の検索にも使わせていただいております。重宝しています。

このように、私どもの業務にJAPICのサービスは欠かせないものになっており、これからもUp-to-dateな情報の提供と、より充実したサービスをお願いいたします。

花巻のことなど

本社のある花巻について少し紹介します。

花巻市は、北上山地と奥羽山脈に東西からかこまれた、北上川流域にひろがる北上盆地のちょうど中央付近に位置します。

四季の自然の中にあって、約400年前から続く「花巻まつり」や、早池峰神楽、鹿踊りなどの伝統芸能、「わんこそば大会」などの行事が折々ににぎわいを見せます。「雨ニモマケズ」の宮沢賢治の文学作品はこの地で生まれました。

周辺には多くの温泉群があり、私は隣の北上出身ですが、帰省したときの温泉めぐりは、ここ10年くらいの楽しみになっています。

少しドライブして山奥の夏油（げとう）などにも足を伸ばすこともあり、木々に囲まれた岩風呂につかったりすると、心身がすっかりリセットされ、日々のモットーとしている、「今できることの一番を着実に」を新たにできた気になります。

くすりの散歩道

NO.48

省エネはザゼンソウから

(財) 日本医薬情報センター
太田 福子 (Ohta Fukuko)

数年前、種無しびわ「希房(きぼう)」が初めて出荷されたとき、一個5,000円と言う初値が話題になった。その希房が、当センター首藤会長から差入れられ、みんなで物珍しく頂いたことがあった。生産数が少ないので市場にあまり出回らないらしいが、今年5月には通勤途上の百貨店で見つけた。普通のびわは食するところが70%、種なしは92%という。20%の差かと思うが食べてみるとしっかり食べられたような気がした。実はこれ、種無し葡萄同様、首藤会長の研究の成果らしい。植物ホルモン・ジベレリンで処理し果実を着果・肥大化させたものという。今後どんな種無し果物が出てくるのだろうか。楽しみ。

以前、桜で有名な多摩森林科学園(2月~5月にかけて咲く紅、純白、緑、黄、紫があった、大輪、小輪、匂い桜と、全国各地の様々な品種の桜1,500本が栽培されている)に行ったとき、園内を案内していただいたことがあった。「ヒイラギはとげとげした葉を持っていますが、老木になると人間と一緒に、とげが取れて丸い葉っぱになるんですよ」と教えてもらったことがある。

ヒイラギの葉が丸くなるのと同様、銀杏の葉も植物ホルモンのせいで丸くなると聞いた。注意して見ると確かに銀杏の葉の切込みも様々。六本木通り(JAPIC前の通り)の銀杏の葉の切込みは未だに深い。毎年幹だけ残して丸坊主に切られてしまうので枝が若々しいから?

銀杏は雌雄異株なので、切込みが有るのがズボンをはいた雄株、切込みが無いのはスカートをはいた雌株と聞いたことがあるが、あれは俗説。植物学的には根拠なし。

銀杏には立派な木が多く、各地の都道府県、市区町村、大学等の木に指定されている。東京大学の銀杏葉マークは切込み3個と1個の2枚の葉からなる。東京大学はまだまだ若い。東京都の銀杏葉マーク



は切込みが無い。都知事をはじめ都庁舎の重厚な様子を象徴しているような気がする。

人間も年をとると丸くなる? 例外もあるが、ホルモンのせいで丸くなるのは少し寂しい。

成長促進物質としての植物ホルモンには、オーキシン、ジベレリン、エチレン、サイトカイニンなどがあると学んだ。

そういえば、りんごはキウイなど未熟な果物と一緒に置くと早く熟し食べ頃になるが、冷蔵庫の野菜室で野菜と一緒においてはいけないというのは常識。りんごがエチレンを出すからだ。

ところで、初春に雪の下から顔を出し春の訪れを告げるザゼンソウは、外気温が零度に近い環境でも周囲の雪をとかして水辺で独特な花を咲かせる。実は、花の部分が1週間も20~25℃に発熱し続けており、しかもこの発熱誘導における情報伝達物質がサリチル酸だという。動物(ヒト)の世界では解熱を促す物質が、植物の世界においては発熱を誘導するという自然の不思議さ。

岩手大学農学部研究グループは、ザゼンソウの発熱機構を解明し、細胞内のエネルギー消費を高めることによる肥満対策や糖尿病治療薬などへの用途開発を進めている。また、この発熱のメカニズムを応用した温度制御システムの開発も行われており、エアコンなども従来より少ないエネルギーで制御することが可能となり、省エネ効果も実証されていると言う。植物の知恵が、エネルギー問題に貢献する日が近く訪れようとしている。

植物ホルモンで説明される身の回りの植物の不思議を探してみました。

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2011年6月1日～6月30日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.306-310)の記事から抜粋

■米FDA

- Drospirenoneを含む経口避妊薬：血栓のリスク増加の可能性
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm257337.htm>>
- アンジオテンシン受容体遮断剤 (ARBs) の安全性に関するレビューが完了；これら薬剤による癌リスクの増加は認められないことについて
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm219185.htm>>
- Zocor (simvastatin) の表示改訂：新たな制限、禁忌および用量に関する制限について
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm258384.htm>>
- 5αリダクターゼ阻害剤 (5-ARIs)：前立腺癌のリスク増加に関する表示変更
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm258529.htm>>
- Actos (pioglitazone)：膀胱癌リスクの増加の可能性に関する最新情報
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm226257.htm>>
- Chantix (varenicline) の表示改訂：特定の心血管系有害事象リスクについて
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm259469.htm>>
- 米FDA、乳房インプラントが未分化大細胞型リンパ腫 (ALCL) 発症に関連している可能性を特定
<<http://www.fda.gov/MedicalDevices/ProductsandMedicalProcedures/ImplantsandProsthetics/BreastImplants/ucm239995.htm>>
- 慢性腎疾患に対する赤血球増殖因子製剤 (ESAs)：用量に関する勧告の変更
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm260641.htm>>

■米CDC

- Notes from the Field：米軍／連合軍医療施設におけるProvidencia stuartii分離株からのcarbapenem耐性を付与するblaNDM-1の検出—アフガニスタン、2011年
<http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm6022a6.htm?s_cid>

■Health Canada

- Hoffmann-La Roche Ltd.のRITUXAN (rituximab)：関節リウマチ患者における致死的な注関連反応
<http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/alt_formats/pdf/medeff/advisories-avis/prof/2011/rituxan_6_hpc-cps-eng.pdf>
- Health Canada、drospirenone含有の経口避妊薬 (Yasmin、Yaz) と静脈血栓塞栓症リスクに関する安全性についてレビュー
<http://www.hc-sc.gc.ca/ahc-asc/media/advisories-avis/_2011/2011_74-eng.php>
- 抗精神病薬：妊娠中に抗精神病薬に暴露した新生児における異常な筋運動と離脱症状リスクに関する表示改訂
<http://www.hc-sc.gc.ca/ahc-asc/media/advisories-avis/_2011/2011_78-eng.php>
- Health Canada、糖尿病治療薬pioglitazone (Actos) と膀胱癌リスクの可能性に関するレビューを実施中
<http://www.hc-sc.gc.ca/ahc-asc/media/advisories-avis/_2011/2011_79-eng.php>
- Health Canada、禁煙補助薬Champix (varenicline tartrate) と心疾患患者における心臓障害リスクの可能性に関するレビューを実施
<http://www.hc-sc.gc.ca/ahc-asc/media/advisories-avis/_2011/2011_84-eng.php>

■EU・EMA

- European Medicines Agency、pioglitazone含有医薬品の継続中のベネフィット・リスクレビューに関する更新情報
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2011/06/WC500107902.pdf>

■独BfArM

- 独BfArM、pioglitazon (pioglitazone) 含有医薬品の使用を今のところ差し控えるよう勧告
<<http://www.bfarm.de/DE/BfArM/Presse/mitteil2011/pm05-2011.html>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介：<<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

【新着資料案内 平成23年6月7日～平成23年7月8日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は書名のアルファベット順〉

書名	著編者	出版者	出版年月
違いのわかる医薬品の重篤な副作用の随伴症状	土橋 洋史 著	考古堂書店	2011年4月
大腿骨頸部／転子部骨折診療ガイドライン 改訂第2版	日本整形外科学会、 日本骨折治療学会 監修	南江堂	2011年6月
平成23年度薬事法令ハンドブック －薬事法、薬事法施行令、薬事法施行規則－		薬事日報社	2011年5月
HTLV-1 母子感染予防対策 医師向け手引き	研究代表者：齋藤 滋	厚生労働省雇用均等・ 児童家庭局母子保健課	2011年3月
遺伝子力 ヒトを支える50の遺伝子	NPO法人システム薬学研究機構 編	オーム社	2011年2月
Indian Pharmacopoeia 2010		Indian Pharmacopoeia Commission	2010年
患者さんと家族のための肝硬変ガイドブック	日本消化器病学会 編	日本消化器病学会	2011年6月
患者さんと家族のためのクローン病ガイドブック	日本消化器病学会 編	日本消化器病学会	2011年6月
L'Informatore Farmaceutico 2011		Elsevier S.r.l	2011年
MIMS Annual 2011 (Australian Edition)	Gillian Swannick	CMPMedica Australia Pty Limited	2011年6月
日中対訳 医薬品、医薬部外品、化粧品及び医療機器 GQP・GVP 2011	吉田 武史、呉 暁文 監訳	薬事日報社	2011年3月
Rote Liste 2011－Arzneimittelverzeichnis für Deutschland (einschließlich EU-Zulassungen und bestimmter Medizinprodukte)	Rote Liste Service GmbH	Rote Liste Service GmbH	2011年
戦後医療事件史	鈴木 厚 著	じほう	2011年6月

情報提供一覧

【平成23年7月1日～7月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	http://database.japic.or.jp/
1. [JAPIC Pharma Report－海外医薬情報]	7月1日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [Regulations View Web版] No.218－219	7月15日・29日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. [添付文書入手一覧] 2011年6月分 (HP定期更新情報掲載)	7月1日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. [JAPIC NEWS] No.328 8月号	7月29日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		5. 臨床試験情報	随 時
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.790－793 (旧：医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	6. 日本の新薬	随 時
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	7. 学会開催情報	月 2 回
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	毎月第一水曜日	8. 医薬品類似名称検索	随 時
4. [外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に 関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.2464－2483	毎 日	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
5. JAPIC Weekly News No.310－313	毎週木曜日	〈iyakuSearchPlus〉	http://database.japic.or.jp/nw/index
6. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.398－401	毎週月曜日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
7. [PubMed代行検索サービス]	毎月第一・三水曜日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
		3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
		4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 2 回
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈JIP e-infoStreamから提供〉	https://e-infostream.com/
		〈JST JDream II から提供〉	http://pr.jst.go.jp/jdream2/

JAPIC

医療用医薬品集2012 <検索用CD-ROM付>



- ◆2011年7月新薬まで収録
- ◆約40年の編集実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品の最新情報に基づき作成
- ◆検索用CD-ROM(非インストール版)付
- ◆便利な「薬剤識別コード一覧」(冊子。別売2,940円 税込)の無料請求葉書付
- ◆類似薬選定のための「薬効別薬剤分類表」を収録
- ◆更新情報メールの無料提供(要登録)

2011年9月発行
B5判 約3,300頁 / 13,650円(税込)

■検索用(非インストール版) CD-ROM Windows版 とは

- ◆収録内容
- 医療用医薬品集
 - 一般用医薬品集
 - 薬剤識別コード一覧
 - 薬価情報
 - 後発品の全情報
 - 添加物情報
 - 医療用医薬品の最新添付文書画像(PDF)の表示機能付(無料・要インターネット接続。PDFは毎週更新)

定価: 8,000円(税込)
※インストール版は15,000円(税込)で別途販売しております。

JAPIC

一般用医薬品集2012

- ◆リスク区分(第1類~第3類医薬品)をわかりやすく表記。
- ◆国内流通医薬品をほぼ網羅する約12,000製品を収録。個々の製品について、製造販売・販売会社、組成、添加物、適応、用法を記載しております。
- ◆付録には、リスク区分情報、ブランド名別成分比較表、国内副作用報告の状況、重篤副作用疾患別対応マニュアル等を収録。

2011年9月発行 B5判 約1,600頁 / 9,450円(税込)



財団法人 日本医薬情報センター JAPIC 編集・発行 ☎ 0120-181-276
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-6367-6038

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

Garden ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

はくさんおみなえし

夏の高原から山地にかけて足元に咲いて登山者を喜ばせる花で、別名のコキンレイカ(小金麗花)の方が通りがよいかも知れない。黄色というより、青空に金色に輝いて見える。おみなえしより花季が早く、背丈が短く、稜線の強風にも耐えて逞し

● <開花する。(ky)>



JAPICホームページより
http://www.japic.or.jp/

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。